

## 死後の世界 第一部 死とは何か 第1章 人の構造

この学び全体のアウトラインと本日の内容

2018年5月から、「死後の世界」をテーマに学びます。

学び全体のアウトライン

## 第一部 死とは何か

1. 人の構造【物質的部分と非物質的部分】 (MBS086 The Composition of Man)
2. 死についての聖書的理解 (MBS091 The Biblical View of Death)
3. 非物質的部分【霊魂】の不滅 (MBS101 Immortality)

## 第二部 人は死んだら、どこへ行くのか

1. 肉体の死後、人の霊魂はどこへ行くのか (MBS107 The Place of the Dead)
2. 復活までの中間的状态 (MBS104 The Intermediate State Between Death and Resurrection)

## 第三部 死者の復活

1. 教会の携挙【新約時代の信者の復活】 (MBS039 The Rapture of the Church)
2. 大患難期の後の75日間【旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活、これで第一の復活は終了】 (MBS042 The Seventy-Five Day Interval)
3. メシアの王国【信者は肉体の死を経ずに全員が変換、不信者は100歳で死ぬ】 (MBS017 The Messianic Kingdom)
4. 王国の後【不信者の(第二の)復活、不信者は第二の死へ】 (MBS045 After the Kingdom)

## 第四部 新しい天と新しい地での永遠の生活 (MBS046 The Eternal Order)

死後の世界について理解するためには、まず「死」とは何か、を知らねばなりません。そのことを学ぶのが第一部です。

第一部の第1章では、人の構造を見ます。人は、大きくは二つ、物質的部分と非物質的部分とから成ります。非物質的部分には魂や霊など6つの要素があり、これに罪の性質が加わって、全部で7つの要素から成ります。福岡集会では、日本人にわかりやすいように、非物質的部分全体を指すときには「霊魂(れいこん)」と呼ぶことにします。

第2章では、肉体の死とは体から霊魂が離れること、第3章では、霊魂はなくならないで、一人ひとり意識を持続し、新しい体を受けるときを待っている、といったことを学びます。

第二部は、肉体の死から復活までの間、霊魂はどこで、どのような状態にあるか、です。

第三部は、死者の復活です。信者の復活は、幸いなる第一の復活とも呼ばれます。時期は後になりますが、不信者も復活します。ただし、これは恐るべき第二の復活です。その行先は「火の池」、永遠の苦しみの場所です。聖書ではこれを、「永遠の滅び」、また「第二の死」と言います。信者には第二の死はありません。

第四部は、私たち信者の最終的な行先、新しい天と新しい地です。

本日は、第一部 第1章 「人の構造」です。フルクテンバウム博士のメシア的バイブル・スタディ・シリーズの第86番「人の構造」に基づきます。

## 人の構造

## 1. 人の起原

創2:7 神は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。  
そこで、人は生きものとなった。

## (1) 土地のちり

① 土地  アダムダウム=赤いもの

●  アダム=(顔に) 血色が見える→顔に赤味を帯びるもの=人間

② ちり  アファル=ちり→土、泥、粘土

## (2) いのちの息

① ヘブル語は、2つの単語から成る。「はい」+「ネシャマー」

②  はい・・・いのち、生きている、新鮮な、生きている物

③  ネシャマー・・・息、風、激しい息、霊、魂、インスピレーション

## (3) 生きもの

① ヘブル語は、2つの単語から成る。「はい」+「ネフェシュ」

② 英語訳では、**a living soul** 生きている魂

③ ネフェシュの語源は、ナファシュ「息をする」。

④ ネフェシュは、息をする生物(動物など)を指すが、身体的にも精神的にもいろいろな意味で使われる。身体的な意味では「体」「人物」「生命」、精神的な意味では「魂」「自分のもの」「自身」など。

⑤ 動物にもこの用語が使われる:「生き物」(創1:21、24、2:19)

## (4) 創2:7が教えるのは

① 「神は、土地のちりで人を形造り」=人の物質的部分、すなわち、からだは、土地のちり、すなわち土から造られた。

② 「その鼻に、いのちの息を吹き込まれた。そこで、人は【はい・ネフェシュ】生きている魂になった」これは二つの意味を含んでいる。

● 人のからだの中に、ネフェシュ(魂)が造られた。これは、人の非物質的部分である。

● ネフェシュが人のからだの中にあると、からだは生きる。ネフェシュがからだから離れると、からだは死ぬ(参考 I列17:21~22)。

## (5) 死んだからだは、土に帰る(創3:19、伝12:7)

## (6) 「いのちの息」は、「いのちの霊」、あるいは「神の霊」と言う箇所もある。

● 創6:17 いのちの息  ルアハ 風、息、空気、霊)

● 創7:15 いのちの息  ルアハ)

● 創7:22 いのちの息  ルアハ) が吹き込まれた ( ネシャマー)

● ヨブ27:3 私の息が私のうちにあり、神の霊が私の鼻にあるかぎり、

● ヨブ33:4 神の霊が私を造り、全能者の息が私にいのちを与える

## (7) 人だけでなく、動物にも、いのちの息(霊)が吹き込まれた(創6:17、7:21~22)。動物にも霊がある(伝3:19~21)。→「人は、霊・魂・体の3つから成り、動物は魂・体の2つから成る」という説は聖書と合致しない。

## 2. 人の構造

- (1) 物質的部分と非物質的部分とから成る。両者は相互に関係していて、影響し合う。
- (2) 物質的部分である「からだ」には、皮ふ、筋肉、関節と腱、骨、各種の器官があるが、これらは一体となって、からだを構成する。
- (3) 非物質的部分は、魂、霊、心、思考、意志、良心という6つの要素から構成されるが、明確な区分はなく、互いに重なるところもあり、これらは一体である。
- (4) アダムの墮落により、アダムとエバの精神の中に、罪の性質が入り込んだ。聖書ではこれを「肉」と呼ぶ。これは、人の非物質的部分を構成する7番目の要素となった。

## 3. 人の継承

- (1) アダムとエバの次の世代からは、妊娠出産によって、人の物質的部分と非物質的部分が継承されていく（参考 ヘブル7:10）。
- (2) 一人ひとりがその都度、神によって造られることはない。次の2か所は、神が創造者であることの表現であって、「その都度、造る」ということではない。
  - ① 詩139:13
  - ② ゼカ12:1

## 4. 物質的部分についての7つの用語

- (1) からだ
  - ① 罪のからだ（ロマ6:6）＝罪の性質は肉体を通して表現される
  - ② この死のからだ（ロマ7:24）＝罪の性質が肉体をコントロールしている
  - ③ 卑しいからだ（ピリ3:21）＝今の肉体は栄光を受けていない状態にある
- (2) 泥の家（ヨブ4:19）＝地のちりから造られた
- (3) 鞘（さや）（ダニ7:15）「私、ダニエルは悩んだ、私の霊の中で、（その霊は）その鞘の中であって」＝人の霊は剣、からだはそれを納める鞘である
- (4) 肉（創6:3、7:21、ヨブ19:26）
- (5) 神殿（ヨハ2:21、Iコリ6:19）＝信者の場合、神がそこに住まわれる場所である
- (6) 土の器（IIコリ4:7）＝人の弱さを表現している
- (7) 地上の幕屋（IIペテ1:13～14）＝今の身体は、一時的なものである

## 5. 非物質的部分の7つの要素 注意：聖書の翻訳では別の英語・日本語のことがあります

	日本語	英語	ヘブル語	ギリシア語
1	魂	Soul	ネフェシュ	プシュケイ
2	霊	Spirit	ルアハ	プニューマ
3	心	Heart	レブ	カルディア
7	肉	Flesh	バサル	サルクス
4	思考	Mind	(レブ)	ノウス、フェロネマ
5	意志	Will	ラツオン	テレイマ
6	良心	Conscience カーンシャンス	(レブ)	スネイデシス

## 6. 翻訳上の注意点

- (1) 聖書原文のヘブル語やギリシア語が、それぞれひとつの英語や日本語に統一して翻訳されているわけではない。
- (2) 原語自体が広い意味を持っているので、翻訳者の解釈も含めて訳語が選択されている。
- (3) 表1番の☐ネフェシュを例に見ると、原文と日本語（新改訳聖書）の関係は
  - ① 創2:7 生きているネフェシュ →生きもの
  - ② 創12:13 私のネフェシュ →私
  - ③ 創17:14 かのネフェシュ →そのような者
  - ④ 創19:20 私のネフェシュ →私のいのち
  - ⑤ 創27:4 私のネフェシュ →私自身

## (4) ネフェシュの意味

- ① 創2:7を見ると、人が最初に造られたとき、人は「生きているネフェシュ」となった。ネフェシュは、息をする生物（動物など）を指すが、身体的にも精神的にもいろいろな意味で使われる。身体的な意味では「体」「人物」「生命」、精神的な意味では「魂」「自分のもの」「自身」など。
- ② ネフェシュが「体」「人物」「生命」を意味するのは、ネフェシュがあつてはじめて土の器であるからだが生きて動くからである。命の実体はネフェシュである。
- ③ ネフェシュは、創2:7では、人の非物質的部分の6つの要素を代表して使われている。人が最初に造られたときに、ネフェシュだけでなく、他の5つの要素も含めて、人の非物質的部分は造られた。

## 7. 「肉」について

- (1) 「肉」は、物質的部分である「からだ」を指す場合と、非物質的部分の要素を指す場合がある。
- (2) 非物質的部分の要素としての「肉」は、他の6つの要素とは次の点で異なる。
  - ① 創2:7で人が最初に造られたときには、人の中には、なかった。
  - ② アダムの墮落によって、罪の性質が人の中に入って来た。聖書は、この罪の性質を「肉」と表現する。
  - ③ 肉は他の6つの要素すべてに影響を及ぼしている。表では7つの要素の中央4行目に位置づけた。
  - ④ 信者になると、他の6つの要素は新しくされる。しかし、肉は新しくされる対象ではない。
  - ⑤ 信者が死ぬとき、あるいは生きていて携挙にあずかる信者であれば変換のときに、肉は完全に消去される。

次回は、7つの要素をそれぞれ詳しく学びます。